

## (農業関係者に対して)

### 1. 学校と連携して農業・農村体験を進める際の流れ等についてアドバイスしてください。

学校が地域の支援を受け農業・農村体験活動に取り組むきっかけは、PTA役員や保護者が農家の場合、農業への関心が高い校長や教師から農業関係者に働きかけがある場合などが多いようです。

このような特定の「ひと」に係るケースのみならず、JAなど地域の農業関係組織が学校の活動を支援するように働きかければ、学校が農業体験に取り組む可能性は一層高まります。地域の資源や人材の活用がポイントとなる「総合的な学習の時間」など、学校でも地域の応援が不可欠になっているからです。

次に示すのは、地域の農業関係組織等が学校と連携する際の流れの一例です。

#### (1) 自分たちの活動支援におけるモチベーションづくり

自分たちが無理なく支援できる農業・農村体験の内容や体制を検討し、おおよその活動メニューづくりを行います。また、学校関係者に話をする際に農業・農村体験の概要がわかる資料があると、話が進みやすくなります。



#### (2) 簡単な資料を持って学校や教育委員会に説明

(1) で作成した活動メニューや農業・農村体験を説明する参考資料を持って、学校や教育委員会へ話をしてみましょう。どこへ話をしてもよいかわからなかったら、教育委員会の学校担当課や学校の校長もしくは教頭先生に話をしてみましょう。



#### (3) 学校の要望等を聞きながら具体的な活動計画づくり(関係者による協議)

活動の規模や頻度など、学校の具体的な要望を聞きながら、計画を具体化します。活動内容は、無理をせずにまず自分たちが取り組みやすいものから着手し、取り組みを重ねる中で発展させましょう。学校への提案は、学校の次年度年間指導計画の作成時期前(冬休み前ぐらい)までに行う方が良いでしょう。



#### (4) 農家やJA青年部・女性部等の協力を得ながら活動を実践

地域内で一緒に支援してくれる組織や個人に連絡し、活動計画を詰めます。支援組織が自分たちだけでも、活動に取り組む年度当初に地域の関連組織等に一声かけておくことは、活動を進める上で様々な課題が発生した場合、スムーズな協力要請や相談等につながるため大切です。この他にも、地域を選んで重点的にJA等の農業関係組織が、子どもたちの農業体験活動を支援したり、子どもたちの農業体験に関するコンクールやフォーラムなどに取り組むことも考えられます。

# 学校農園を作りませんか？

私たちが計画・実践までご協力いたします。

## 農業体験学習のご相談から実施まで

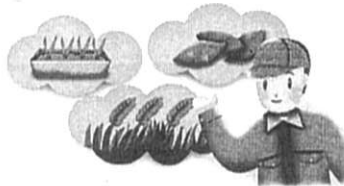
ご相談



- 希望する作物など、どのような農業体験学習をお考えか、お聞かせください。
- 各地の学校で実施された農業体験学習の実例についてもご紹介いたします。
- 学校の周辺環境、参加児童数など学習の目的にあわせて、要望をまとめていきます。



計画づくり

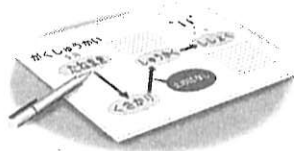


- 学校のご要望、学習の目的など優先順位を明確にし、これをもとに学習の内容を検討します。
- 管理や指導の協力・応援をJAやJA YOUTH、JA女性部と調整します。
- 学習の実施に向けた日程や費用の負担など、大まかな基本計画をまとめます。

※JA YOUTH(ジェイエイ・ユース):農家の後継者グループ  
※JA女性部:農家の女性グループ



ご提案



- 基本計画を基に、場所や栽培作物の選定、指導者など協力者を紹介します。
- 基本計画に沿って、学習日程や費用等を具体的にまとめた実施計画を提案します。
- スムーズな実施に向けて、学校や関係者との連絡調整を行いながら、全体のスケジュールを調整します。



実施



- いよいよ「農業体験学習」の実施。学習の準備(土づくりや苗など)はJAや関係者がバックアップ。
- 学習期間中の栽培管理・指導については、JAやJA YOUTH、JA女性部などが協力します。



出典：「農業体験学習のススメ」JAグループ広島

## 2. 学校における農業・農村体験学習への取り組みが可能な時間について教えてください。

学校が学習活動として、農業・農村体験に取り組むケースとしては、以下のような時間の活用が想定されます。いずれにおいても、地域の協力を得ながら進めていくことが大切です。

### (1)教科における学習

地域の産業や我が国の農業に関する内容は、社会科で学習します。このほか、植物の栽培や植物の仕組みを生活科や理科で、草花や野菜等の作物の栽培を技術・家庭科で、食や健康に関する内容を保健体育科や技術・家庭科で学習します。このような教科の学習と関連付けて農業体験を行うことが考えられます。

米作りに関しては小学校の5年生の社会科で農業を取り扱うことから、教科の学習と関連付けて5年次に米作り活動を取り入れる学校もよく見られます。

### (2)特別活動(学校行事など)

学校の行事として、学校や地域の農園や田んぼで作物を栽培・収穫し、生産の喜びを味わうことができるような体験活動を行ったり、農山漁村に宿泊し農業体験をしたりすることなどが考えられます。

### (3)総合的な学習の時間

地域や学校の実態に応じて、創意工夫を生かした特色のある教育活動が展開される時間であり、各教科で行う農業に関する学習と十分関連を図った学習活動が行われることが期待されます。

「総合的な学習の時間」は、

①地域や学校、子どもたちの実態に応じ、学校が創意工夫を生かして特色ある教育活動が行える時間

②国際理解、情報、環境、福祉・健康など、従来の教科をまたがるような課題に関する学習が行える時間

として新しく設けられた時間です。

この時間では、子どもたちが各教科等の学習で得た個々の知識を結び付け、総合的に働かせることができるようにすることを目指しています。また、この時間では、子どもたちの自ら学び自ら考える力を育むことや、学び方や調べ方を身に付けることをねらいとした活動が展開されます。

この時間の中で農業体験を行う場合も、こうしたことを十分考慮した学習活動となるようにすることが大切です。

「総合的な学習の時間」は、小学校では3年生以上から週当たり3時間程度、中学校では週当たり2～4時間程度、高等学校では卒業までに3～6単位が割り当てられます。

### 〔参考〕

「総合的な学習の時間」のねらいとその際の配慮事項について以下のことが示されています。(※出典：小学校学習指導要領・文部省告示・平成11年5月)

#### <ねらい>

- ・ 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につけること。
- ・ 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

#### <配慮事項>

- ・ 自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験活動、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。
- ・ グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること。

この「ねらい」と「配慮事項」にはいずれも農業体験学習のなかで活かすことのできる事柄を多く含んでいます。

### 3. 地域が学校を支援する際のポイントについて、アドバイスをお願いします。

地域の農業関係者等が学校の活動を支援する際、次のような点に留意しましょう。

#### (1) 学校の教育活動を地域として支援する視点が大切

学校・家庭・地域がそれぞれの教育機能を発揮しつつ、連携・協力して、みんなで子どもたちを育てていくという視点が大切です。学校の創意工夫を生かした「総合的な学習の時間」の導入など、今、地域の特色を生かした学校づくりが求められています。学校は地域の財産ととらえて、地域で学校の教育活動を支援しましょう。

#### (2) 学校や教育委員会等からの相談や問い合わせに丁寧に対応

農業・農村体験に取り組むために必要な情報について、地域の農業関係組織等に気軽に相談できる体制があり、相談や問い合わせに対し丁寧な対応やわかりやすい説明があれば、

学校では教育活動として農業・農村体験に取り組みやすくなります。また、学校が必要とする情報をパンフレットやインターネット等により提供することも有効です。

### **(3)子どもたちが自分で考えたり、体験することを支援(見守る)**

農業・農村体験で子どもたちがうまくできず、とまどっている際、ついつい代わりにやってあげたり、手を焼いてしまいがちです。しかし、それでは子どもたちにとって、達成感の少ない活動となってしまいます。大人は子どもたちが自分で考え、自分の手でできるように支援し、見守ってあげることも大切です。

### **(4)子どもたちにとって魅力ある活動を企画**

近年、定年帰農（定年サラリーマン等による新規就農）が話題となり、生きがいを目的とした農業が人気を集めています。こうした農業は少量多品目の作目への取り組みが特徴で、一つ一つは小さい規模ながら多様な農産物が栽培されています。百姓という言葉が百の（生活の）技を持つことを指すように、農や食、そして周辺の様々な生活技術にふれられる体験が子どもたちに望まれます。

また、これは主に学校側の取り組みですが、体験をしたら、その記録や印象を文章や絵・写真等でまとめること（体験のふりかえりや加工）が子どもたちの活動にとって重要となります。収穫したものを人にあげて喜んでもらう、まとめたことを関わってくれた人に報告するといった活動も、この延長線上に位置付けられます。

### **(5)いいことばかりでなく失敗する経験も子どもたちにとって重要**

子どもたちにりっぱな作物を収穫させたいと思うのは当然ですが、農業・農村体験ではりっぱなものをつくることだけが活動の目的ではありません。時には子どもたちにとって失敗も重要な経験となるものです。大切なのは子どもたちが活動にどのように関わったかというプロセスであり、結果は失敗の場合もあります。自然体で子どもたちの活動を応援しましょう。

### **(6)実費をいただくことも活動を継続させる上で大切**

農業関係者であるあなたが子どもたちの農業・農村体験に取り組む際、金銭等をもたらすことに抵抗を持った経験はないでしょうか？1回や2回の取り組みならまだよいですが、手弁当ばかりでは継続的な活動となりにくいのも事実です。そうであれば、最初から、無理のない体制づくりを行うことが大切です。例えば、体験活動を行うコストのうち、実費を学校側や保護者に負担してもらうことが適当なものもあるでしょう。あらかじめ学校と率直に話し合い、息の長い活動としたいものです。